

明治大学戦没学徒忠霊殿に関する資料

新潟縣護國神社（新潟市中央区）本殿隣に、学徒出陣戦死者など、明治大学関係戦没者の御霊を慰め鎮める「**明治大学戦没学徒忠霊殿**」がある。

この忠霊殿は、もともと1939（昭和14）年、明治大学内に建立されたものである。

忠霊殿の建立を大学に働きかけたのは**新潟出身の校友師尾源蔵**であった。師尾は関係者に寄付を募り、**駿河台キャンパスの旧図書館閲覧室内に忠霊殿を建立**した。当初祀られたのは日清・日露戦争および第一次世界大戦から日中戦争の関係者であったが、第二次世界大戦後半から、学徒出陣戦死者が多数祀られていくことになった。**明治大学からは第二次世界大戦末期に少なくとも4,600名の学徒が出征したとされる。大学では毎年7月10日を慰霊日として、慰霊祭を行ってきた（写真①）。**

しかし第二次世界大戦終戦後、**GHQの指示**により、**忠霊塔などの施設**は戦争モニュメントとみなされ、**その撤去が求められることになった**。1946（昭和21）年に文部省から出された通達「公葬等について」は、今後忠霊塔などの建設を行わないこと、**すでに学校内等に存在するものはその撤去を求める**など、厳しい内容のものであった。これは公機関・団体に対して求められたものであったが、明治大学内の忠霊殿存続にも影響を与えたと考えられる。

ほどなく**忠霊殿は図書館から撤去され、旧記念館地下に放置されることになった**という（『明治大学新聞』1955（昭和30）年6月25日付など）。

忠霊殿建立に尽力した師尾はそれを嘆き、**1950（昭和25）年、郷里新潟の新潟縣護國神社に忠霊殿の遷座を依頼**した。しばらく有志で祭礼を行っていたというが、**同神社に忠霊殿が復元された1955（昭和30）年、校友会新潟県支部などの主催により、7月9日・10日の二日間にわたり慰霊祭が行われた（同）**。以来忠霊殿は同神社に仮安置され、毎年同支部の主催により慰霊祭が行われてきた。

2006（平成18）年には、同神社の厚意と関係者の尽力によって、同神社本殿脇に新たに「明治大学戦没学徒忠霊殿」が建立された。以後毎年理事長はじめ大学関係者が、校友会新潟県支部主催の慰霊祭に出席する。

2007（平成19）年10月には、霊璽簿（祭神名簿）奉納式および忠霊殿の由緒を記した石碑除幕式が行われている。

忠霊殿では現在、判明している324名の戦没学徒の御霊を護持している。

なお2019（令和元）年、校友会新潟県支部および関係者により、師尾源蔵の顕彰碑が、忠霊殿脇に移設された。

（明治大学140年小史 原稿より引用）



明治大学忠霊殿慰霊祭のようす（1940年代）

写真①



明治大学戦没学徒忠霊殿慰霊祭（2019年）

写真②